

蒼生

そう せい

2016年
4月号

車社会がもたらすもの

名誉院長
飯島 崇史

もう半世紀も前のことだ
忘れてはならない。

が、我が家に自家用車がやってきた。マツダのキャロルという軽自動車だった。今から思うと小さな車であったが、それ以前、昭和30年ごろよく見かけたのは映画「ALWAYS 三丁目の夕日」で見られるマツダのバタンコと呼ばれたオート三輪やダイハツのミゼットであったから、いかにも斬新という印象を受けた。道路は未舗装のところが多く、でこぼこ道であったはずだが、乗せてもらえるだけでうれしかったことを思い出す。その後50年余、道路も車も進化し、自動車産業は技術や経済の牽引役として、我々に便利で快適な生活をもたらしてくれたことはすでに周知の事実である。一方で、負の遺産として公害や事故の多発、大規模化を招いたことも

近年オートマチック車の普及に加え、ドライバーの高齢化もあって、アクセルとブレーキの踏み違いによる事故が頻発している。これら操縦ミスによる事故に対し、自動運転の技術開発が脚光を浴びているようだ。いまや人工知能(AI)が世界トップレベルの囲碁棋士を打ち負かし、大学の入試問題を解き、はたまた小説まで書く時代になった。すでに乗用車の自動運転や介護の補助などは実用化目前であるとも言う。しかし自家用乗用車はいざ知らず、商用車への導入にはまだまだ時間がかかりそうだ。

人と乗員2名死亡、26人負傷するという痛ましい事故報道があった。また3月17日には山陽自動車道八本松トンネルで、渋滞中の車列にノーブレーキのトラックが追突。12台玉突きで火災を起こし2名の死亡71人負傷と言う大事故があったばかりである。運転手の疲労による居眠りが原因との報道もあった。いずれも運転手はいざ知らず、巻き添えで被害にあわれた方々には、誠にお気の毒としか言いようがない。なぜならこれらの方々は、自分の努力で被害を逃れることがかなわぬからである。車道近くの歩道を歩くな。長距離夜行バスは利用するな。高速道路のトンネルは利用するな。いずれも非現実的な指摘でしかない。被害の甚大さからすると、商用車にこそ自動運転、安全システムの導入が急がれるのではないだろうか。

通常では考えられないような場面に遭遇した。温暖化防止に協力のため、マイカー出勤をやめてバス通勤にしているので、その日もいつものように路線バスに乗った。運転手は60代後半とおぼしき年嵩の新人で、斜め後方には彼より若いが指導員らしき人が陣取っている。いつも思うのだが、ワンマンカーの運転手は大変だ。運転だけでなくマイクでの案内、乗降ドアの操作、料金表示版の操作、運賃清算の確認、カード販売等々をこなさなくてはならない。本来の運転に集中できないのではないかと心配になるほどだ。案の定この新人、停留所で待っている乗客を見落として通過しそうなったり、ドアを閉め忘れて発車しかけたりするものだから、我々乗客のほうがヒヤヒヤし通し。挙句の果て、定期路線バス

なのに道を間違えてしまった。本来右折すべきところを誤って直進し、まだ気付かない。たまりかねた女性の乗客が叫んだ。「運転手さん、道が違いますよ!」と。指導員

も気がつかなかったようだ。次に乗ったとき、指導員の同乗はなかったが、運転は相変わらずであった。本人も自覚していると見えて「本日で3日目、不慣れをお許しください。早く慣れますので」と繰り返すのであった。そして3回目のとき再び前と同じように道を誤ったので、たまりかねて私も「道が違うよ!」と注意した。今までに何人も新人を見てきたが、みんなそれぞれ一人前に育っている。初心者といえども客を乗せた営業車。コースを間違えるなどありえないと思う。本人には申し訳ないが、適性がないのか言いようがない。人から杞憂だといわれるかもしれないが、大きな事故に繋がらない

ようにと思えばこそその指摘である。その後、彼の姿を見ていない。

中国の「杞」という国に並外れて心配性の男がいた。天が落ちてきはしないかと毎日不安で食べ物のどを通らない。天は屋根でないから落ちてはこないと教えると、今度は地が崩れはしないかと心配になる。かように取り越し苦労をすることを「杞憂」というが、自動車事故の頻度を考えると、ヒトの能力を超えた安全性には残念ながらAIなどに軍配を上げざるを得ない。内心忸怩たる思いではあるが、自動車社会、便利なのにに軍配を上げざるを得ない。安全な自動車運転にかかわる様々な問題など、単なる杞憂に過ぎないと思える。いとはすことのできる世にぜひなっているものである。



「弁護士と医師は並び称されることが多いが、それは何故だと思う?」

これは、私が修習生時代、就職活動で法律事務所を回っていたときに、病院側の医療過誤事件を取り扱う弁護士から投げかけられた問いです。なかなか明確に答えられず、お釈迦様が出家を志した原因は?等のヒントをいた

ながら、四苦八苦し、一端に辿りついた記憶があります。字数に限りがあるので早々に答えを述べてしまいますが、その弁護士がその問いの答えとして用意していたのは、正に「四苦八苦」でした。

～プロムナード～

弁護士と医師の共通点

土道法律事務所 弁護士 飯島充士

苦悩を深め、出家を決意したという逸話です。「八苦」とは「愛別離苦(愛する者と別れ離れてしまうこと)」「怨憎会苦(恨み憎んでいる相手と出会うこと)」「求不得苦(求めて

いるものが手に入らないこと)」「五蘊盛苦(心身が思うようにならないこと)」を指します。「八苦」は八つあるわけではなく、この四つで「八苦」です。ちなみに、ここで言う「苦」とは「思うようにならないこと」を意味し、「苦痛」より「苦悩」の意味合いが強いと言えます。

「四苦」とは「生」「老」「病」「死」を指します(元々王族であった釈迦が生の儚さに悩み、四方の城門から外に出た際に老人、病人、死者を見て

と思うところがあります。日々の生活の中の思うようにならないことを専門家として技術や知識をもって助け、導き、少しでもその悩みを解決しようとするところに弁護士と医師の共通点があるということなのでしょう。

ところで、釈迦は四苦に触れて出家の道を歩むことにしたとされているわけですが、この逸話はなかなか興味深いものがあります。釈迦は、「苦」に対処するために、高名な医師を抱える、不老不死研究に走る、自ら医学を志すといった「医」の道でもなく、善政を敷き社会制度を整えるという「法」「政」の道でもなく、哲学(宗教)の道を選んだわけです。四苦八苦の対処法は医療や法律といった技術的なものではなく、自己の意識を変革させることである、と言われているようで、色々と考えさせられます。

(以上)



持ち回り読書「ラム」第七回

外科医師 小林和也



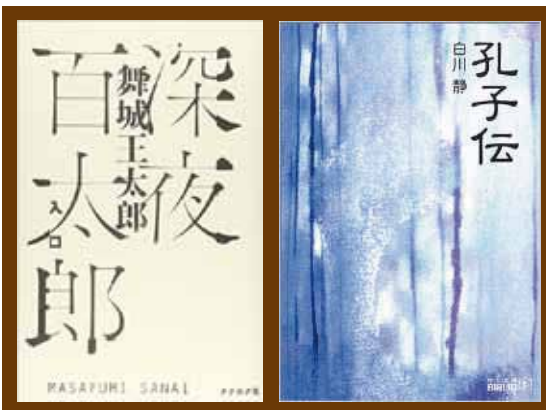
このコーナーに参加された職員はみなさんいろんな本を紹介してくれていて、なんとなくその人の内面がみえてくるようで毎回楽しみにしていました。敬遠される人もい

たに読みたい本がなくなにも読んでないこともありすが、読みたい本がたまっ

さて今回は自分の読書方法について書いてみようと思います。

「色彩を持たない多崎つくると

一冊の本をじっくり読むこともありますが、たい



彼の巡礼の年」「日本軍はなぜ満州大油田を

ている本もあります。それは新しく買った本の方に興味がい

読後は気に入ったフレーズや文章をノートに書き出すこ

また読んだことのない作者のものを読むことも多いけど、

彼が哲学者のレヴィナスを師匠と仰ぐ思想家？・武道家



ブログの記事をまとめたもので、本を買わなくてもネットで読めばそれです。ところが、彼の本の多くはほとんど同じ内容のことを繰り返して表現を変えて書いているものが多いのでどの本を読んでもそんなに違いはありません。

お知らせ

☆形成外科診療日の変更

4月より毎週木曜に変更しました

☆楠本理事長が

旭日雙光章を受章しました



新入職員紹介

(平成28年1月以降に入社)

形成外科医師	向井裕子	形成外科医師	高木弘誠
外科医師	丸山真奈実	放射線技師	田頭寿郎
薬剤師	丸山真奈実	理学療法士	貞谷洋生
看護師	佐藤麻紀子	看護師	芳澤美紀
看護師	澁谷裕美	事務	武内美樹
介護支援専門員	小川幸路		

世界保健デー

～2016年は糖尿病について考える～

世界保健機関(WHO)が誕生したのは1948年4月7日です。

WHOは保健衛生分野の国際的な機関です。世界各地での年ごとの重点課題を標語にし、各国に保健衛生活動を呼びかけています。保健問題を考え、健康を促進する為の今年のテーマが『糖尿病』なのです。日本でも現在すでに1000万人前後という試算も。糖尿病患者はなぜ増え続けているのでしょうか？改めて「糖尿病ってどんな病気？」について話したいと思います。



まず初めに、糖尿病の特徴としてあげられるのは、血糖値の上昇です。これは、膵臓からインスリンの分泌が不足し、慢性的に血糖値が高くなり代謝異常が引き起こされた状態をいいます。

また、糖尿病

には2つの型があり、1型糖尿病と2型糖尿病に分けられます。そのうち最も増えているのが2型糖尿病です。これは、過食や運動不足によってインスリン作用が不足して生じる糖尿病です。しかし、実際には2型糖尿病にかかっていることに気が付かない方や気が付いていても治療をしないで放置している方がいらつ

しやいます。その理由は、自覚症状がないとか、仕事が忙しいとかいろいろですが、そのまま血糖を高いまま放置しておく、そのうちに、手足のしびれや痛み、下肢の筋肉のこむらがり、目のかすみ等の症状が出てきます。そのような症状がでてからあわて医療機関を受診される方がおられます。

糖尿病で、特に重要なのが「血糖コントロール」と「体重

管理」です。治療は食事・運動・薬剤などさまざま



まなアプローチをします。生活習慣は人それぞれで、自分では気づかないうちに症状を悪化させてしまうことがあります。特に、糖尿病治療では「血糖コントロールがかなめ」です。

そこで、糖尿病の症状が出ないうちに早めの受診をお勧めします。当院では、糖尿病の治療の一環として、糖尿病の知識の普及や食事の指導を行う糖尿病教室を開催しています。そこでは、医師、管理栄養士、看護師、薬剤師、理学療法士が中心となって様々なプログラムを提供しております。参加者との会話も多く、話の内容も糖尿病の基本から丁寧にお話し、質問も気軽にできる雰囲気です。糖尿病について不安などがある方は、ぜひ一度ご参加ください。

糖尿病療養指導士 今井

オープンカンファレンス

「口から食べるを考える」

平成28年2月16日に広島市立リハビリテーション病院歯科部長吉田光由先生をお迎えして「口から食べるを考える」と題した講演をして頂きました。他施設からの出席者も含め68名もの聴講者が参加しました。



高齢化が進み、当院でも摂食嚥下問題は大きな課題です。年齢を重ねても口から「美味しい」と食べて頂くにはどうしたらいいのか？今回の講演では、舌の観察、食事の形態の工夫、嚥下訓練等たくさんの方の介護・看護のヒントを頂きました。聴講者の感想の中にも、「口からものを食べることは、人にとってとても大切なことだと思っています。」

その為には、どういう姿勢

が良いのか、こういった形態が良いのか、観察や評価がとて大事なことでということ学ぶことが出来ました。」などの意見が沢山あり、聴講者個々が何らかの学びを得る事ができました。

私達医療職は、できれば経管栄養や胃瘻などに頼ることなく、患者様に口から笑顔で美味しく食べてもらいたいと願っています。今回の研修での学びを糧にし、患者様一人一人の「口から食べる」を考えながら日々の医療看護に努めて参ります。



50*夜間歩行にチャレンジ

居宅介護支援事業所 株本

平成27年も残り一ヶ月近くとなったある日、知人より一通のラインが届きました。「50キロ夜間歩行に出よう！」普段2人とも山登りをしています、アスファルトの道をしかも50キロという距離を歩

て順番に座席に案内されました。今年は総勢740人の申し込みがあり、神奈川県や愛知県からの参加者もおられました。19時50分ボランティアや実行委員の方に見送られスタート。天候に恵まれ、不安はあるもののベストコンディションでのスタートとなりました。

スタートして次のポイントで

くのは未知の世界です。当日までの2ヶ月間は、休日に20キロ以上のトレーニングを行った、夜間仕事が終わって歩いたりとそれなりの準備をして当日を迎えました。

平成28年1月30日、スタート地点である県民文化センターで出発式が行われました。受付でヘッドランプと反射タスキが装着されているかチェックを受け



スタートして次のポイントである7キロ先の幸千中学まではストックを使わず、時速6キロペースの歩行でした。芦田川を上り府中に入ると、列にばらつきが出てきたため、ひたすら前の人について歩きました。20キロ地点で心配していた右膝に激痛が走り、これ以上は無理なのでトリタイアの文字が頭をかすめました。しかし31キロ地点の河佐駅までは頑張って歩くこ

とを目標にしていたため、鎮痛剤を服用し痛みが治まったところで再スタート。川からの風が冷たく、最後のコンビニを過ぎると辺り

は真つ暗になりひたすら河佐駅をめざしての歩行となりました。2時間ごとに鎮痛剤を服用し河佐駅に到着したのは夜中の3時30分。知人と相談し何とか続行できる状態だったため行けるところまで歩こうという事になりました。道中、知人と仕事や次の登山の話をしながらかアップダウンのあるアスファルトを歩き続け備後三



川駅を通過する頃には、空が明るくなってきました。相変わらず右膝に痛みがありました、前向きな気持ちでゴールを目指すことができました。残り11キロ地点で最後の休憩を取り、再スタート。ストックがなく木の枝について歩いている人、道に座り込んでいる人を横目に、ひたすらゴールに向かって歩き続けついにゴール!!道中、励ましてくれた知人に感謝して笑顔で完歩できたことに大きな達成感を感じることが出来ました。



看護師・准看護師合格者

沢山の方々に支えて頂き、また日々指導して頂きながら無事、准看護師の試験に合格しました。

これからは責任が大きくなってくるので今まで以上に知識の習得に心掛けたいです。看護師を目指して頑張っていきます。これからもご指導よろしくお願い致します。

4階病棟 藤井

この度、准看護資格試験に無

事合格する事ができました。

初心を忘れず、先輩方の指導を受けながら、日々努力し精いっぱい頑張ります。よろしくお願いいたします。

4階病棟 澁谷

この度、准看護師資格試験に合格する事が出来ました。先輩方のご指導、ご助言を受け准看護

師として、日々笑顔を忘れることなく精進し、知識と技術の習得に努め、患者様によりよい看護を提供出来るよう頑張ります。

3階病棟 芳沢



忘年会景品レポート

「え？ 嘘？ やったー!!」

2015年、最後の最後にその年一番の運を使い切った瞬間でした。なんと病院主催の忘年会で一等が当たったのです。今までクジ運なんて全くなかった私にとって奇跡に近い出来事でした。景品を受け取り、はやる気持ちを抑えきれず、すぐさま包装紙を開けました。中身を見てビックリ！趣味で一眼レフをメインに写真を撮っていた私。「手軽に撮れるカメラが欲しいな」なんてぼんやり思っていた所にまさしく「手軽に撮れるカメラ」が当たりました。



このカメラ、本当に「お手軽」要素がたくさんある素晴らしいカメラなのです。デジタルカメラなのにスマートフォンで写真を撮るように手軽に自撮りができ、さらに撮った写真をすぐスマートフォンに送れるのです。これは友達と写真を撮るときにとっても役立ちます。手軽なうえに画素数は1610万画素！スマー

トフォン並みの手軽さなのに画質はスマートフォン以上。言うことなしですね。



夜景をきれいに撮れることはもちろん、手ブレ補正機能が高いためブレやすいズーム撮影でもピントがあった写真が撮れるのです。さらに一眼レフで撮ったような背景をぼかした写真も撮れてしまう優れもの。様々な場面に合わせた撮影モードがありますが、すべてを書ききれないのが残念です。

さて、お手軽カメラを持って何を撮影しようかなと考えていたところ、友達から結婚や出産の報告がありました。笑顔が絶えない幸せいっぱいな友達、可愛い赤ちゃんを抱いてすっかり母の顔つきになった友達。そんなみんなを見ているとこっちまで温かい気持ちになれます。それぞれ新たなスタートを迎えた2016年春。これからどんな出会いがありどんな瞬間をこのカメラに収めることができるのか楽しみです。

クラーク 鼓

3階病棟

3階病棟はICU7床と一般病床42床を有す、急性期及び外科疾患が中心の病棟です。外科・整形外科・形成外科・泌尿器科などの手術患者や救急患者を24時間体制で受け入れています。

急な手術を受けられる患者様はとても不安でいっぱいだと思います。少しでも不安が少なく手術が受けられる様お話しをさせて頂き、解らないことを解決できるようにしたいと常に考え看護をしています。スタッフは平均年齢35歳と若い病棟ですが（若くない？）、「気持ち良い挨拶と笑顔を絶やさない」をモットーに取りくんでいます。

近年入院期間が短くなり、慌たしく退院へとなる場合があります、心を痛めていきます。

患者様が自宅へ帰られて生活される時に少しでも困らないように、患者様や家族の方としっかりお話しをして、必要な退院支援を行っています。



蒼生 (2016年4月号)

発行 福山市曙町3丁目19番18号
医療法人蒼生会楠本病院
TEL (084) 954-3030
FAX (084) 954-9085
発行人 名誉院長 飯島崇史
発行日 2016年4月1日



理念

地域医療のニーズに応え住民の皆様の信頼を得る医療をめざします

基本方針

- ・急性期から慢性期さらには在宅支援まで含めた幅広い医療を提供いたします
- ・患者さんの安全を最優先に考える医療を行います
- ・新しい技術と知識の習得に努め、良質の医療を提供できるよう努力します
- ・快適な療養環境づくりをめざします